

ロシアウクライナ戦争の経済制裁におけるゲーム理論分析：欧米諸国の利他性と名声便益・コストに着目して

武蔵大学 経済学部経済学科 笠松ゼミ 4年 川崎遼生

研究要旨

本論文では現在でも解決されていない国際問題であるロシアウクライナ戦争を取り上げ、これを経済制裁で止めるために何が必要なのか、ゲーム理論を用いて分析と考察を行う。特に欧米諸国の行動である、制裁の強度を変えるとロシアがどのように対応を変えるのかを検討後、どうすれば欧米諸国の強度の高い制裁を引き出すことができるのかについて注目する。分析は大きく分けて 3 つのモデルについて分析を行った。まずベースラインモデルとしてウクライナの利益を考慮しないロシアへの経済制裁ゲームモデルを作成する。そのモデルをもとに戦争当事国であるウクライナを登場させ、ウクライナに対する利他性を欧米諸国の利得に導入したら結果がどう変わるのかを考察する。その後、2 つ目のモデルでは制裁を行うにあたってのコストを増減させた時に結果はどう変化するかを、3 つ目のモデルでは欧米諸国の強国としての立場を使用する名声便益及びコストをモデルに反映させた時の値に結果はどう変化するかを順番に分析していく。

この結果、欧米諸国の強い制裁を引き出しロシアの侵攻を停止させるためには、どの方法においても欧米諸国のウクライナに対する十分に高い利他性が必要であることが分かった。また、2 つ目のモデル分析方法ではコストが上昇した場合はさらに高い利他性が必要になり、一方低下した場合には多少利他性が低くても侵攻を停止させられることが分かった。3 つ目のモデル分析では欧米諸国は、自分の強国として

の立場を守るために利他性を高めることが分かった。

以上のように本論文では経済制裁に関連する様々な条件を取り上げ、それらを変動させることで制裁を行う欧米諸国の行動を変化させられることが分かった。だが、本論文で記しきれなかった条件や盛り込めなかったプレイヤーも存在しており、これが今後の研究課題である。